

中央にどっしり構える優さん、優しい笑顔の智子さん=右=、介護リフォームの資格を取得した晃奈さん=左。



身内だからこそ甘えずに
チームワークで困難乗り越える

家族で発信する幸せパワー

「仕事もプライベートも24時間、一緒にいるのが当たり前」という両親に、「信じられなけれどそれが2人のスタイル」と冷静に見つめる娘。北谷町で建設・リフォーム業を営む川上優さん(59)、智子さん(57)夫妻と次女の晃奈さん(31)家族だ。職人かたぎでストリートな父、その後を追いつながら自分なりの仕事を模索する娘、時には衝突する2人を取りまとめる母。「チームワークが大事」との思いの中、三人三様の個性をうまく調和させ、幸せパワーを発信する。

優さんが会社を立ち上げたのは22年前。勤務していた会社が倒産し、沖縄地区の責任者として借金を返済しながらの出発だった。「私がやりくり上手だったからかな(笑)。よく乗り越えられたねって自分と夫を褒めたい」と智子さんはあつげらんかん。「とにかく苦労をかけた。ここまで来れたのは妻がいたから」と、優さんから感謝の言葉があふれ出す。

その会社に晃奈さんが入社したのは2007年。出産後の再就職先だった。呼び方も「お父さん」から「社長」へ。長年、建設業で働いてきた職人かたぎの父親と、未経験の業界で不安を抱えながら働く娘。優さんも「身内だから甘えがあつてはいけない」とあえて厳しく接した。激しい衝突を止めたのは智子さんの言葉。「辞めたい」と泣

く晃奈さんに、「私はお父さんの味方。あなたはあなたの人生があるから、ここを辞めてやりたいことをやったら」と話した。晃奈さんにとっては衝撃的な言葉だったが、それをきっかけに父親や仕事への姿勢も変わっていった。「意見が異なっても、社長の一言でうまくいくケースが多い。仕事のレベルが上だと思つと、反発心が薄れた」。さらに、離婚も経験したこと仕事への覚悟ができたという。晃奈さんの心境の変化を感じ取って、優さんも変化。「徐々に仕事を覚えてきて、少しずつ任せられるようになった。お互い成長したのかも」と、娘を仕事上のパートナーとして認めるようになった。心をひとつにして、新分野の事業にも乗り出した。介護リフォームや建築への自然素材の活用などだ。



ヒノキの建材を使った手作りコースター。8月1日(土)、2日(日)に北谷町商工会で開催される住まいの相談フェアで来場者に配るため、準備の真っ最中だ

プロフィール

かわかみ・まさる/1956年、宜野湾市生まれ。93年に同市内でラムハウジングを創業。99年に北谷町。新築、増築、改装工事や、福祉用具のレンタルを行う。
www.lamb-h.com

県外視察も3人で

絆のひ・け・つ♡

仕事がひと段落したら、リフレッシュを兼ねて県内のホテルへ1泊2日のプチ旅行というのが優さん、智子さんの楽しみの一つでもある。また、県外での視察やセミナー、企業の説明会なども、できる限り3人で参加しているという。「年に4、5回、県外での視察には3人でやっている。最新情報を共有することで、仕事もスムーズにいき、仕事にプラスになるから」と優さん。研修、リフレッシュ、家族のコミュニケーションの場として、旅行で絆を深めている。



●月に行った鹿児島への工場見学での記念写真

「情報をキャッチして、それを生かして提案できるのは、チームワークがあつてこそ」と優さん。一番のパートナーである智子さんに、「仕事中心だった私を支えてくれた。本当に結婚して良かった」としみじみ語る。智子さんは「短気でせっかちなところはマイナスだけど、私は夫に頼りっぱなし。だからずっと一緒にいるの」と笑顔が絶えない。晃奈さんは「両親から夫婦のあり方を学んだし、社長の仕事のスタイルも学んだ」と尊敬のまなざしを向ける。

社名「ラムハウジング」は、群れで生きる羊から名付けられた。信頼と感謝の気持ちで結ばれる3人は、未年のことし、よりいっそうチームワークを深めていくのだろう。(高江洲千里)

|| この連載は今回で終了